

これなら安全！ 在宅で行う 胃瘻カテーテル交換のコツ



西山順博 著（西山医院院長）

【執筆協力】

中村智子、小倉幸美（西山医院）

島本和巳、本郷真功（社会医療法人誠光会 草津総合病院）

本コンテンツはハイブリッド版です。PDF だけでなくスマホ等でも読みやすい HTML 版も併せてご利用いただけます。

▶HTML 版のご利用に当たっては、PDF データダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶シリアルナンバー付きのメールはご購入から 3 営業日以内にお送り致します。

▶弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することで HTML 版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶登録手続

1. はじめに p2
2. 胃瘻カテーテルの種類 p2
3. 胃瘻カテーテルの選択 p4
4. 胃瘻カテーテル交換の前に整えておくこと p5
5. 胃瘻カテーテル留置の確認方法 p9
6. 在宅での胃瘻カテーテル交換の手技 p12
7. PEG 地域連携パスによる連携 p16
8. 事故抜去・自己抜去の対応 p19
9. 相互接続防止コネクタに係る国際規格の導入について p22
10. 経腸栄養における診療報酬 p24
11. 胃瘻カテーテルの交換と保険請求について p26
12. 在宅経腸栄養の医療材料にかかる費用 p28
13. 終末期の経腸栄養について p28

▶HTML版を読む

日本医事新報社では、Web オリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶Webコンテンツ一覧

このコンテンツを読んでワカルこと・デキルこと

- ▶患者に適した胃瘻カテーテルを選択デキル
- ▶胃瘻カテーテル交換に伴うリスクとその回避法がワカル
- ▶在宅でも安全に胃瘻カテーテル交換がデキル
- ▶PEG 地域連携パスによる連携がワカル
- ▶経腸栄養関連の保険請求がワカル

1. はじめに

胃瘻カテーテルは、一定期間ごとに交換する必要がある。現在、各メーカーから、様々な特徴をもった胃瘻カテーテルが発売されており、交換手技は製品ごとに異なるため、説明書の参照が必要である。適切な方法で交換しなければ、腹腔内誤挿入など重篤なトラブルが起こる危険性がある。本項では、医師が行う交換の手技と胃瘻に関わる最新情報等について記す。

2. 胃瘻カテーテルの種類(図1)

胃瘻カテーテルはボタン型とチューブ型、バルーン型とバンパー型の組み合わせで4種類がある。患者の状態、介護者の状況、療養場所などをふまえ、胃瘻カテーテルを選択することが重要である。

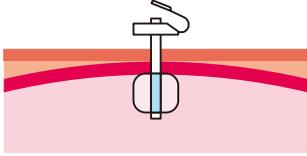
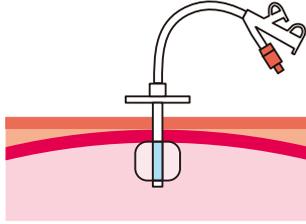
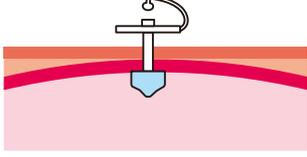
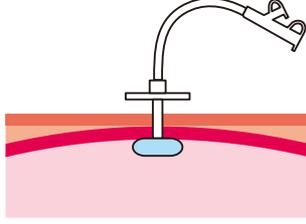
	ボタン型	チューブ型
バルーン型	 <p>[長所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バルーン内の固定水を抜いて挿入・抜去するので交換が容易 ・目立たず動作の邪魔にならない ・逆流防止機能がある <p>[短所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バルーンの破裂、蒸留水が抜けることがあり、定期的な固定水の入れ換えが必要（製品により、週1回ごとと1カ月ごとがある） ・短期間で交換が必要 ・外部ストッパーの位置を変えることができない ・投与時の栄養管との接続に慣れが必要 	 <p>[長所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バルーン内の固定水を抜いて挿入・抜去するので交換が容易 ・投与時の栄養管との接続が容易 ・外部ストッパーの位置を変えることが可能 <p>[短所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バルーンの破裂、蒸留水が抜けることがあり、定期的な固定水の入れ換えが必要（製品により、週1回ごとと1カ月ごとがある） ・短期間で交換が必要 ・露出したチューブが邪魔になり、外観が悪く、事故抜去しやすい ・チューブ内の汚染が起きやすい
バンパー型	 <p>[長所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カテーテルが抜けにくく、交換までの期間が長い ・目立たず動作の邪魔にならない ・逆流防止機能がある <p>[短所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交換時に痛みがある ・交換時に瘻孔損傷の危険がある ・外部ストッパーの位置を変えることができない ・投与時の栄養管との接続に慣れが必要 	 <p>[長所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カテーテルが抜けにくく、交換までの期間が長い ・投与時の栄養管との接続が容易 ・外部ストッパーの位置を変えることが可能 <p>[短所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交換時に痛みがある ・交換時に瘻孔損傷の危険がある ・露出したチューブが邪魔になり、外観が悪く、事故抜去しやすい ・チューブ内の汚染が起きやすい

図1 胃瘻カテーテルの種類と短所・長所

(西山順博：看護の現場ですぐに役立つ胃ろうケアのキホン. 秀和システム, 2018, p49-50より転載)

3. 胃瘻カテーテルの選択

在宅での交換は、ガイドワイヤーやスターレットが付属しているキットが望ましい。バルーン型のほうがバンパー型に比べ、抜去時・挿入時の瘻孔損傷が少ない。

①在宅療養患者の訪問診療中、介護者が病院へ連れていけない場合

在宅医が1カ月ごとに在宅でストレスが少なく交換できるバルーン型カテーテルを選択。

②特別養護老人ホーム入所中、近隣にPEG・在宅医療学会の認定する専門胃瘻管理者がいる場合

バンパー型カテーテルを選択し、専門胃瘻管理者には半年に1回の交換を依頼する。患者がチューブを無意識に引っ張ってしまう時は、チューブが取り外せるボタン型バンパーを選択。

③患者自身が準備・注入をする場合

チューブ型バンパーを選択。

④小児であり、交換時の痛みを軽減したい場合

バルーン型を選択。

⑤抗血栓治療中であり、交換時の出血が危惧される場合

バルーン型を選択。

ボタン型バンパー型の胃瘻カテーテル(図2)では、メーカーにより逆流防止弁の位置が異なる。いくつかの種類があり、取り外せるチューブ部分を接続チューブと呼ぶ。外部バンパーに逆流防止弁がついているボタン型には、持続投与用とボラス投与用の2種類、内部バンパーに逆流防止弁がついているボタン型には減圧用を加えた3種類のチューブがある。サイズや形も様々であり、紛失しやすいため注意が必要である。

注入前には、胃内のガス抜きが必須である(特に半固形化の栄養剤注入時)。在宅では、接続チューブを装着するだけで逆流防止弁が開放できる

タイプが便利である（外部バンパーに逆流防止弁がついている（図2①））。

各々の患者に対して，退院後の生活に合った胃瘻カテーテルの選択が必要と言える。

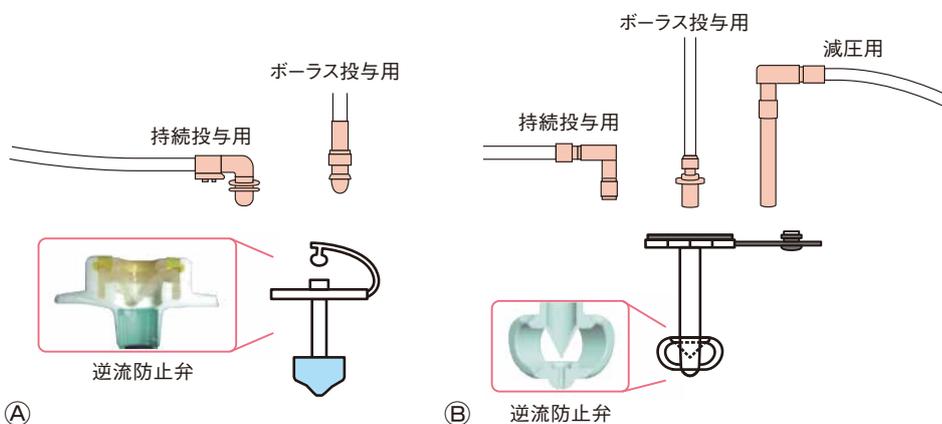


図2 ボタン型バンパー型の胃瘻カテーテル

(西山順博：看護の現場ですぐに役立つ胃ろうケアのキホン. 秀和システム, 2018, p50より転載)

4. 胃瘻カテーテル交換の前に整えておくこと

在宅患者の胃瘻カテーテルの種類，サイズ（太さ，長さ），バルーン型の場合は注入水（蒸留水）の量を知っておく必要がある。退院時のカンファレンスなどで病院から引き継ぎ，次回の交換について，いつ誰がどこでどうやって交換するのかをあらかじめ決めておくことが重要である。また，胃瘻カテーテルのタイプは必ずしも以前と同じものに交換する必要はなく，患者や家族の希望に合わせて途中から変更することも可能である。胃瘻による経管栄養を実施した結果，栄養状態が改善し体格が良くなり，ボタン型がきつい場合にはサイズアップしたり，チューブ型に変更することもある。逆にチューブ型で，チューブ部分の汚染が気になる場合にはボタン型に変更することもある。状況に合わせて種類やサイズも最適なものを選択されるべきである。